

新年にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会 長 小 池 広 靖 CMA



新年おめでとうございます。

昨年10月、当協会は創立60周年を迎えました。われわれ約2万9,000人の個人検定会員（CMA）と約200社の法人会員は、金融業界にとどまらず幅広い業種にわたり、多様な分野で活躍しています。時代の変化を捉えながら発展を牽引してくださった諸先輩方ならびに皆さんのご尽力とご活躍の賜物と改めて深く感謝いたします。

1年前の楽観的なムードからは一転し、足元の世界経済は困難な局面を迎えています。米国ではインフレ圧力の鎮静化が難航する中で、中央銀行は難しい舵取りを迫られています。欧州については昨年末に足を運び有識者から話を伺いましたが、引き続きエネルギー価格の高止まりが経済活動の重石となりそうだ、という意見が多く、やや慎重な姿勢に見受けられました。ロシアのウクライナ侵攻などによる地政学リスクの高まりや、中国における不動産市場の動向もリスクセンチメントに暗雲を漂わせているほか、新興国の景気も弱含みとなっています。日本では、昨年10月半ばから本格的に水際対策が緩和され、インバウンド消費の回復に伴う経済効果が期待されていますが、一方で、企業の設備投資計画に影響を与えうる為替相場の変動については、当面は注視が必要な状況です。そればかりか、経済立て直しという本質的な課題は、依然として大きく残ります。少子高齢化が本格化する中で、労働所得増加、企業のデジタル化・脱炭素化に向けた取り組みなど、課題は山積しており、日本が抱える社会課題解決に向けた創意工夫が求められています。

このような環境だからこそ、企業の価値と未来を見抜くCMAの役割は以前にも増して注目されると思います。潮目が変わることを念頭に、小さな変化を見逃さず、同時に大局的な視点で物事を考える必要があります。私たちそれぞれが期待されている役目を全うできるよう、より一層主体的な姿勢で取り組んでいきましょう。

困難な時代ではありますが、前向きな話題もあります。昨年を振り返ると、サステナビ

リティ課題への取り組みがますます加速し、持続可能な社会の実現に一步近づきました。4月の東京証券取引所の市場再編を機に、プライム市場の上場企業において「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言に基づく気候変動リスクと機会の情報開示が実質的に義務づけられました。このような開示や制度化が強化されていく中、一步踏み込んだ非財務情報の開示が少しずつ見られるようになり、良い変化を目の当たりにしています。財務情報と非財務情報の適切な関連付けをはじめ、その分析は複雑さを増すものと思慮しますが、新しくチャレンジングな環境でこそ目覚ましい成長につながるのではないのでしょうか。11月に開催されたCOP27では、気候変動問題の重要性が再確認されました。エネルギー問題によって、世界の脱炭素化の後退が一時は懸念されましたが、会議をきっかけに再び加速しました。また「自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）」のβ版と、日本政府による「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」が公表されています。サステナビリティ課題への取り組みにおける次のステップとして、自然資本、人的資本や人権などの社会関連を中心とした新たなESG課題への対応強化が想定されています。われわれCMAにおいては、緻密な分析と検証を繰り返しながら、急速な変化に対応する柔軟性が求められます。

当協会でもサステナビリティ課題を専門性向上に資するテーマの一つと考えており、昨年9月にはCFA協会の「投資プロダクトに関するグローバルESG開示基準」（2021年版）の日本語訳を公表しました。高い関心が寄せられるESG投資の開示分野について、海外動向を知る一助になればと思います。また国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が公表した公開草案に意見書を提出し、開示情報ユーザーの立場からサステナビリティ開示基準の策定に関与したことは大きな成果でした。これはCMAの皆さんから寄せられたアンケート結果を基に議論を重ね、提言に至っています。本年も時代の要請に応えるべく、さらなる情報提供の充実を図り、また議論の場を設ける予定ですので大いに活用してください。なお本年6月には、CMAプログラム改定後初めてとなる、新しい第2次試験の実施を控えており準備を進めています。

2023年は癸（みずのと）卯（う）年です。うさぎには跳ねる特徴があるため、“向上”“飛躍”を象徴するとして縁起の良い年と言われているそうです。日本の長期金融市場が健全に飛躍できるよう、私たちの毎日の積み重ねが国民の“貯蓄から投資へ”を正しく推進する一助になればと考えています。うさぎのいわれを上回る成果を上げられるように頑張りましょう。本年の皆さんのご健勝とますますのご発展、一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。